

平成22年度  
事業報告書

学校法人 常葉学園

# 目 次

1. 法人の概要	
(1) 建学の精神 .....	1
(2) 学校法人の沿革 .....	1
(3) 設置する学校・学部・学科等 .....	4
(4) 学校・学部・学科の学生生徒等数の状況 .....	5
(5) 役員の概要 .....	6
(6) 評議員の概要 .....	7
(7) 教職員の概要 .....	8
2. 事業の概要	
(1) 事業の概要 .....	9
(2) 主な事業の目的・計画及びその進捗状況 .....	9
(3) 施設等の状況 .....	2 1
(4) その他 .....	2 3
3. 財務の概要	
(1) 財務の概要 .....	2 4
(2) 資金収支計算書 .....	2 5
(3) 消費収支計算書 .....	2 6
(4) 貸借対照表 .....	2 7
(5) 主な財務比率比較 .....	2 8
(6) 借入金の状況 .....	2 8
(7) 寄付金の状況 .....	2 9
(8) 補助金の状況 .....	2 9

# 1. 法人の概要

## (1) 建学の精神

本法人の建学の精神は、次に掲げるとおりです。

### 建学の精神

常葉学園は、学問の研究と人間の育成に限りない情熱を傾けられた日本史学の泰斗木宮泰彦先生によって、昭和二十一年に創立された。「戦後の混沌とした日本を再び立ち上がらしめ、光輝ある平和な文化国家を建設するためには、先ず教育の力にまたなければならない。」とのゆるぎない信念のもとに、敢えて困難をも顧みず常葉学園の創立にあたられたのである。この教育の力に対する創立者の信頼と確信こそは、本学園の建学の精神の根本である。

創立者木宮泰彦先生は「万葉集」に見える聖武天皇の御製

橘は 実さへ 花さへ その葉さへ  
枝に霜ふれど いや常葉の樹

に因んで学園を「常葉」と名づけ、その理想の姿を橘の瑞木に託された。霜雪に耐えてつねに青々とした葉を繁らせ、純白で香り高い花を咲かせ、豊かな黄金の実を結ぶ橘こそは、常葉学園の教育理念の象徴である。即ち、本学園の理想とする人間像は、美しい心情をもって、国家・社会・隣人を愛し、堅固な意志と健康な身体をもっていかなる苦難にもうち克ち、より高きを目指して学び続ける人間である。

百丈禅師のこゝば「一日作さざれば一日食はず」を自戒として、日々研鑽を積まれた学園創立者木宮泰彦先生の生涯は、まさにこの建学の精神の具現であった。先生は順境に奢らず、逆境にめげず、常によりよき自己の実現のために、生涯にわたって真摯な努力を続けられた。この創立者の精神こそ常葉学園にかかわるすべてのものの心である。

## (2) 学校法人の沿革

昭和21年	6月	静岡女子高等学院創立
昭和22年	11月	静岡女子高等学院設置認可
昭和23年	2月	財団法人常葉学園設置認可
	4月	常葉中学校開校
昭和25年	12月	財団法人から学校法人へ組織変更認可
昭和26年	8月	静岡女子高等学院を高等学校として設置認可
	10月	静岡女子高等学院を常葉高等学校に名称変更認可
昭和27年	4月	常葉高等学校（普通科）開校
昭和28年	7月	各種学校たる静岡高等女子学院廃止認可
昭和38年	4月	橘高等学校開校
昭和40年	4月	橘中学校開校
昭和41年	4月	常葉女子短期大学（国文科、保育科）開学 常葉女子短期大学附属とこは幼稚園開園

昭和43年	4月	常葉女子短期大学に音楽科設置
昭和45年	4月	常葉女子短期大学に専攻科（保育専攻、音楽専攻）設置 常葉女子短期大学附属たちばな幼稚園開園
昭和46年	4月	橘高等学校に音楽科設置
昭和47年	4月	常葉女子短期大学に英文科、美術・デザイン科設置 常葉短大附属菊川高校（普通科、美術・デザイン科）開校
昭和53年	4月	常葉学園橘小学校開校 学園内各校（園）の名称変更 ○常葉女子短期大学→常葉学園短期大学 ○常葉女子短期大学附属とは幼稚園→常葉学園短期大学附属とは幼稚園 ○常葉女子短期大学附属たちばな幼稚園→常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園 ○常葉高等学校→常葉学園高等学校 ○常葉中学校→常葉学園中学校 ○橘高等学校→常葉学園橘高等学校 ○橘中学校→常葉学園橘中学校 ○常葉短大附属菊川高校→常葉学園菊川高等学校
昭和55年	4月	常葉学園大学（教育学部初等教育課程）開学
昭和56年	4月	常葉学園橘小学校を常葉学園大学教育学部附属橘小学校に名称変更
昭和58年	4月	常葉学園橘高等学校に英数科設置
昭和59年	4月	常葉学園大学に外国語学部（英米語学科、スペイン語学科）設置
昭和63年	4月	常葉学園浜松大学（経営情報学部経営情報学科）開学
平成2年	4月	常葉学園富士短期大学（商学科、国際教養科）開学
平成5年	4月	常葉学園短期大学専攻科（保育専攻、音楽専攻）が学位授与機構から認定専攻科の認定を受ける
平成6年	4月	常葉学園浜松大学に国際経済学部（国際経済学科）設置 常葉学園短期大学専攻科（美術・デザイン専攻）[学位授与機構認定専攻科]設置
平成7年	4月	常葉学園短期大学国文科を国語国文科に英文科を英語英文科に名称変更するとともに専攻科国語国文専攻 [学位授与機構認定専攻科] 及び留学生別科設置 学校法人浜松常葉学園が発足し、常葉情報専門学校開校
平成8年	4月	常葉学園大学大学院国際言語文化研究科（国際教育専攻、英米言語文化専攻）設置 常葉学園浜松大学大学院経営学研究科（経営学専攻）設置 常葉学園医療専門学校（理学療法学科、作業療法学科）開校 常葉情報専門学校を常葉環境情報専門学校に名称変更

平成10年	4月	常葉学園大学教育学部に生涯学習学科設置 常葉学園浜松大学を浜松大学に名称変更
平成12年	4月	富士常葉大学（流通経済学部流通経済学科、環境防災学部環境防災学科）開学
平成13年	4月	浜松大学経営情報学部に情報ネットワーク学科設置 常葉学園短期大学国語国文科を日本語日本文学科と名称変更
	10月	常葉学園富士短期大学廃止認可
平成14年	4月	常葉学園大学に造形学部（造形学科）設置
平成15年	4月	常葉学園菊川中学開校 常葉学園短期大学留学生別科廃止
平成16年	3月	常葉学園短期大学美術・デザイン科及び専攻科(美術・デザイン専攻)廃止
	4月	常葉学園大学教育学部に心理教育学科、外国語学部にグローバルコミュニケーション学科設置
平成17年	4月	浜松大学に健康プロデュース学部（健康栄養学科、こども健康学科、心身マネジメント学科）及び留学生別科設置 常葉学園医療専門学校に鍼灸学科、柔道整復学科設置 常葉学園静岡リハビリテーション専門学校（理学療法学科）開校
平成18年	4月	富士常葉大学に大学院環境防災研究科、保育学部（保育学科）、留学生別科を設置するとともに流通経済学部（流通経済学科）を総合経営学部（総合経営学科）に名称変更
平成19年	4月	浜松大学にビジネスデザイン学部（経営情報学科、サービスと経営学科）設置
平成20年	4月	常葉学園大学大学院に初等教育実践研究科（初等教育高度実践専攻）設置 学校法人常葉学園が学校法人浜松常葉学園を吸収合併
	7月	常葉学園大学外国語学部スペイン語学科廃止届出
	9月	常葉環境情報専門学校廃止認可
平成21年	4月	浜松大学保健医療学部（理学療法学科、作業療法学科）設置 浜松大学大学院健康科学研究科設置
平成22年	3月	浜松大学経営情報学部（経営情報学科・情報ネットワーク学科）及び国際経済学部（国際経済学科）廃止
	4月	浜松大学健康プロデュース学部（健康柔道整復学科、健康鍼灸学科）設置 富士常葉大学社会環境学部（社会環境学科）設置

## (3) 設置する学校・学部・学科等

(平成22年5月1日現在)

学校名	開校年月	研究科・学部・課程等	専攻・学科・科	開設年月	摘要
常葉学園大学	昭和55年4月	教育学部	初等教育課程	昭和55年4月	
			生涯学習学科	平成10年4月	
			心理教育学科	平成16年4月	
		外国語学部	英米語学科	昭和59年4月	
グローバルコミュニケーション学科	平成16年4月				
造形学部	造形学科	平成14年4月			
常葉学園大学大学院	平成8年4月	国際言語文化研究科	英米言語文化専攻	平成8年4月	
			国際教育専攻	平成8年4月	
		初等教育高度実践研究科	初等教育高度実践専攻	平成20年4月	
浜松大学	昭和63年4月	ビジネスデザイン学部	経営情報学科	平成19年4月	
			サービスと経営学科	平成19年4月	
		健康プロデュース学部	健康栄養学科	平成17年4月	
			こども健康学科	平成17年4月	
			心身マネジメント学科	平成17年4月	
			健康鍼灸学科	平成22年4月	
			健康柔道整復学科	平成22年4月	
		保健医療学部	理学療法学科	平成21年4月	
			作業療法学科	平成21年4月	
			留学生別科	平成17年4月	
浜松大学大学院	平成8年4月	経営学研究科	経営学専攻	平成8年4月	
		健康科学研究科	健康栄養科学専攻	平成21年4月	
富士常葉大学	平成12年4月	総合経営学部	総合経営学科	平成12年4月	
			環境防災学部	環境防災学科	平成12年4月
		保育学部	保育学科	平成18年4月	
			社会環境学部	社会環境学科	平成22年4月
富士常葉大学大学院	平成18年4月	環境防災研究科	環境防災専攻	平成18年4月	
常葉学園短期大学	昭和41年4月		日本語日本文学科	昭和41年4月	
			英語英文科	昭和47年4月	
			保育科	昭和41年4月	
			音楽科	昭和43年4月	
		専攻科	国語国文専攻	平成7年4月	
			保育専攻	昭和45年4月	
常葉学園医療専門学校	平成8年4月	医療専門課程	理学療法学科	平成8年4月	※2
			作業療法学科	平成8年4月	※3
			鍼灸学科	平成17年4月	※4
			柔道整復学科	平成17年4月	※5
常葉学園静岡リハビリテーション専門学校	平成17年4月	医療専門課程	理学療法学科	平成17年4月	
常葉学園高等学校	昭和23年4月	全日制課程	普通科	昭和23年4月	
常葉学園橘高等学校	昭和38年4月	全日制課程	英数科	昭和59年4月	
			普通科	昭和38年4月	
			音楽科	昭和38年4月	
常葉学園菊川高等学校	昭和47年4月	全日制課程	普通科	昭和47年4月	
			美術・デザイン科	昭和47年4月	
常葉学園中学校	昭和23年4月				
常葉学園橘中学校	昭和40年4月				
常葉学園菊川中学校	平成15年4月				
常葉学園大学教育学部附属橘小学校	昭和53年4月				
常葉学園短期大学附属とこほ幼稚園	昭和41年4月				
常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園	昭和45年4月				

- ※1 平成21年度から学生募集を停止し、平成24年度をもって廃止予定  
 ※2.3 平成20年度から学生募集を停止し、平成23年度をもって廃止予定  
 ※4.5 平成21年度から学生募集を停止し、平成23年度をもって廃止予定

## (4) 学校・学部・学科等の学生生徒等数の状況

(平成22年5月1日現在)

学 校 名	研究科・学部・課程等名	専攻・学科・科名	入学定員数	収容定員数	現員数
常葉学園大学	教育学部	初等教育課程	110	440	520
		生涯学習学科	60	240	264
		心理教育学科	60	260	288
	外国語学部	英米語学科	100	440	502
		グローバルコミュニケーション学科	70	300	261
	造形学部	造形学科	80	330	325
常葉学園大学大学院	国際言語文化研究科	英米言語文化専攻	10	20	1
		国際教育専攻	10	20	8
	初等教育高度実践研究科	初等教育高度実践専攻	20	40	23
浜松大学	ビジネスデザイン学部	経営情報学科	120	640	390
		サービスと経営学科	120	610	472
	健康プロデュース学部	健康栄養学科	80	340	264
		こども健康学科	60	280	125
		心身マネジメント学科	110	470	410
		健康鍼灸学科	30	30	3
	保健医療学部	健康柔道整復学科	30	30	9
		理学療法学科	40	80	92
		作業療法学科	40	80	38
			留学生別科	40	40
浜松大学大学院	経営学研究科	経営学専攻	15	30	36
	健康科学研究科	健康栄養科学専攻	10	20	3
		臨床心理学専攻	10	20	21
富士常葉大学	総合経営学部	総合経営学科	160	700	739
	環境防災学部	環境防災学科	-	460	310
	保育学部	保育学科	80	330	344
	社会環境学部	社会環境学科 ※1	130	130	104
		留学生別科	30	30	5
富士常葉大学大学院	環境防災研究科	環境防災専攻	10	20	7
常葉学園短期大学		日本語日本文学科	80	160	118
		英語英文科	80	160	125
		保育科	200	400	429
		音楽科	55	110	95
	専攻科	国語国文専攻	20	40	11
		保育専攻	20	40	15
		音楽専攻	20	40	50
常葉学園医療専門学校	医療専門課程	理学療法学科 ※2	-	80	73
		作業療法学科 ※3	-	80	40
		鍼灸学科 ※4	-	120	35
		柔道整復学科 ※5	-	120	36
常葉学園静岡リハビリテーション専門学校	医療専門課程	理学療法学科	80	320	242
常葉学園高等学校	全日制課程	普通科	240	720	568
常葉学園橘高等学校	全日制課程	英数科	80	240	95
		普通科	420	1,260	808
		音楽科	40	120	32
常葉学園菊川高等学校	全日制課程	普通科	315	945	930
		美術・デザイン科	60	180	129
常葉学園中学校			80	240	126
常葉学園橘中学校			90	270	216
常葉学園菊川中学校			60	180	160
常葉学園大学教育学部附属橘小学校			60	360	338
常葉学園短期大学附属とこは幼稚園				240	240
常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園				230	238

※1 平成21年度から学生募集を停止し、平成24年度をもって廃止予定

※2.3 平成20年度から学生募集を停止し、平成23年度をもって廃止予定

※4.5 平成21年度から学生募集を停止し、平成23年度をもって廃止予定

### (5) 役員概要

理事13名(定数10人以上13人以内)

監事 5名(定数 2人以上 5人以内)

<平成22年4月1日現在>

区分	氏名	常勤・非常勤別	摘要
理事長	木宮健二	常勤	平成14年4月理事就任 平成14年4月理事長就任 平成19年4月富士常葉大学学長就任
副理事長	木宮一邦	常勤	平成9年4月理事就任(平成11年3月迄) 平成9年4月副理事長就任(平成11年3月迄) 平成14年4月浜松大学学長就任(平成22年3月迄) 平成14年4月理事就任 平成21年4月副理事長就任
副理事長	木宮岳志	常勤	平成19年5月理事就任 平成21年4月副理事長就任 平成22年4月常葉学園短期大学学長就任
常務理事	三浦均	常勤	平成17年4月理事就任 平成17年4月常務理事就任
常務理事	高木敏正	常勤	平成21年4月理事就任 平成21年4月常務理事就任
理事	角替弘志	常勤	平成22年4月常葉学園大学学長就任 平成22年4月理事就任
理事	中村正義	常勤	平成22年4月浜松大学学長就任 平成22年4月理事就任
理事	吉村耕司	常勤	平成20年4月常葉学園橘中・高等学校校長就任 平成21年4月理事就任
理事	大石富之	常勤	平成20年4月常葉学園菊川中・高等学校校長就任 平成21年4月理事就任
理事	齊藤斗志二	非常勤	昭和63年3月理事就任(財団法人静岡県体育協会会長)
理事	山内啓司	非常勤	平成13年5月理事就任(スズキ株式会社顧問)
理事	中村隆行	非常勤	平成13年5月理事就任(株式会社ミホミ代表取締役)
理事	原田誠治	非常勤	平成21年4月理事就任(株式会社静岡新聞社常勤顧問)
監事	加藤正秀	非常勤	昭和62年10月理事就任(平成14年3月迄) 平成14年4月監事就任(学校法人加藤学園理事長)
監事	高木伯一	非常勤	昭和50年10月理事就任(昭和60年2月迄) 昭和60年3月監事就任(花の舞酒造株式会社相談役)
監事	石橋一郎	非常勤	平成6年4月理事就任(平成9年3月迄) 平成6年4月常務理事就任(平成9年3月迄) 平成9年4月監事就任
監事	堀敬史	非常勤	平成19年5月監事就任(学校法人亨栄学園顧問)
監事	齋藤安彦	非常勤	平成21年4月監事就任(弁護士)



## (6)評議員の概要

評議員 45名(定数39人以上51人以内)

〈平成22年4月1日現在〉

氏名	在任年月	主な現職等
角 替 弘 志	9年	常葉学園大学学長・大学院研究科長
中 村 正 義	11年	浜松大学学長
木 宮 健 二	8年 1か月	富士常葉大学学長
木 宮 岳 志	2年11か月	常葉学園短期大学学長
内 藤 恭 久	1年	常葉学園医療専門学校校長
紫 藤 徹 郎	5年	常葉学園静岡リハビリテーション専門学校校長
永 井 みや子	1年	常葉学園中・高等学校校長
吉 村 耕 司	5年	常葉学園橘中・高等学校校長
大 石 富 之	2年	常葉学園菊川中・高等学校校長
小 林 成 樹	5年	常葉学園大学教育学部附属橘小学校校長
稲 葉 昌 代	新任	常葉学園短期大学附属とこは幼稚園園長
大 堀 昌 子	4年	常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園園長
木 宮 一 邦	19年	常葉学園企画監
三 浦 均	5年	常葉学園財務監・浜松大学副学長
高 木 敏 正	1年	常葉学園人事監
鈴 木 薫	2年	常葉学園大学副学長・外国語学部長
中 川 邦 明	新任	常葉学園大学教育学部長
筒 井 祥 博	新任	浜松大学副学長・保健医療学部長
稲 葉 光 彦	4年	富士常葉大学副学長・保育学部長
畑 隆	1年	富士常葉大学総合経営学部長・図書館長
加 藤 光 良	新任	常葉学園短期大学保育科長
勝 俣 元 雅	25年	常葉学園大学第1回卒・静岡市立小学校教頭
中 澤 康 徳	3年	浜松大学第1回卒・会社員
小 倉 岳 彦	10年	常葉学園富士短期大学第1回卒・会社員
稲 川 直 子	2年	常葉学園短期大学第2回卒・特養老園長
小 澤 美 佐 子	9年	常葉学園中高校第13回卒
溝 口 由 美 子	39年11か月	常葉学園中高校第6回卒・元常葉学園菊川中高校事務長
村 上 信 也	5年	常葉学園橘中高校第7回卒・会社役員
伊 藤 元 久	10年	常葉学園菊川中高校第6回卒・元同窓会会長・会社員
町 田 益 己	31年11か月	常葉学園橘中高校第7回卒・常葉学園大学後援会OB会会員・県職員
望 月 春 雄	3年	常葉学園大学後援会OB会会員・常葉会顧問・会社役員
矢 部 正 則	1年	元浜松大学後援会会長・会社員
三 澤 賢 治	5年	富士常葉大学後援会OB会会長・会社役員
池ヶ谷 恒 雄	1年	常葉学園短期大学後援会OB会会長
前 畑 謙 次	1年	常葉学園中高校PTA顧問・会社役員
山 田 誠	5年	常葉学園橘中高校第15回卒・PTA会長・県議会議員
大 橋 隆 夫	3年	元常葉学園菊川中高校PTA・後援会会長・菊綾会理事
木 宮 和 彦	59年 4か月	常葉学園学園長
海 野 晴 男	20年	常葉学園名誉理事
狩 野 義 之	7年	常葉学園本部企画部長
木 宮 満 彦	8年 11か月	元常葉学園富士短期大学教授
原 田 誠 治	1年	株式会社静岡新聞社顧問
山 本 陽 一	20年	常葉学園名誉理事・常葉福社会理事長
海 野 泰 男	35年11か月	前常葉学園大学学長
永 井 衛	5年	元静岡大学学長

(7)教職員の概要

(平成22年5月1日現在 単位：人)

		常葉学園本部	常葉学園大学	浜松大学	富士常葉大学	常葉学園短期大学	常葉高等学校	常葉中学校
教員	本務		92	130	59	41	29	9
	兼務		162	150	120	176	20	12
職員	本務	48	34	26	29	19	4	1
	兼務	18	16	26	33	19	2	0

		橘高等学校	橘中学校	菊川高等学校	菊川中学校	橘小学校	とこは幼稚園	たちばな幼稚園
教員	本務	48	15	57	11	26	11	13
	兼務	60	10	43	8	18	4	4
職員	本務	6	1	7	1	2	1	1
	兼務	4	5	4	0	1	0	0

		医療専	静岡リハ専	常葉リハ病院	総合計
教員	本務	21	11	0	573
	兼務	42	39	0	868
職員	本務	4	3	60	247
	兼務	2	2	27	159

(注) 本務者の平均年齢は、教員47.4歳 職員は42.7歳である。

## 2. 事業の概要

### (1) 事業の概要

現在の教育を取り巻く環境は、初等中等教育においては、学習指導要領の改訂に伴う授業時間や学習量の増加、学校評価や教員免許更新制の実施等、大幅な改革が進められつつある一方、高等教育においても社会貢献の一層の推進や積極的な情報公開、FDの推進による大学教員の質の向上、学士教育の質の保証等が厳しく要求されるなど、社会は学校の設置者に対してこれまでより以上に良質な教育を提供するよう強く求めています。

本法人におきましては、こうした社会情勢を踏まえ、建学の精神を教職員共通の基盤として堅持しつつ、財政の健全化のために学生等の募集・確保に努める一方、教育内容のレベルアップ、教育施設の充実、教職員研修を通じたスキルアップ、さらには事務システムの改善・改革等を図り、社会からの期待に応えるよう各種事業を推進いたしました。

このほか、平成22年度における大きな事業としては、4月に浜松大学健康プロデュース学部健康柔道整復学科及び健康鍼灸学科を、富士常葉大学には社会環境学部社会環境学科をそれぞれ新設したほか、10月には常葉学園大学が創立30周年記念式典を、常葉学園静岡リハビリテーション専門学校が創立5周年記念式典を挙げてまいりました。

また、12月には理事会において「学園内3大学1短大の統合計画について」及び「水落校地の整備基本計画について」という二つの将来計画を決定しております。

### (2) 主な事業の目的・計画及びその進捗状況

#### ① 組織の充実・強化

教職員の能力を十分に引き出すとともに組織体としての機能強化を図ることによって厳しい経営環境の中で果敢かつ安定的な経営を実現するため、以下の点について推進しました。

第一に、平成22年度には寄附行為に基づく常務理事会を、理事長、副理事長、常務理事が出席し、常葉学園大学学長及び常葉学園橋中・高等学校校長が陪席して年間30回余り開催しました。

第二に、諸規程の整備については、育児・介護休業法改正に伴う就業規則の改正、管理規則の人事異動関連条項の改正、新会計システム導入等に伴う経理規則・同施行規程の改正及び給与規程、定年制規程等の改正を行い、また、危機管理規程を新たに制定しました。

第三に、事務職員の職階制度の適用を開始しました。

第四に、監査機能の充実については、前年度に行った内部監査において指摘した課題についての対処・改善の状況などを中心に内部監査を実施しました。その結果、各所属において改善した事項が多く見られました。

第五に、研修制度の充実については、基本研修及び授業力・事務力向上強化月間制度が3年目を迎えて着実に実施しました。管理職研修会については、前年度から変更した県内2日間の日

程で実施しました。夏期研修会については、日程を8月下旬に変更した上、1日間で実施した結果、出席率が向上しました。各大学・短大においてはFD・SD研修を実施しました。また、学外研修については、教育力及び事務力向上に資する研修に多くの教職員が参加しました。

第六に、事務システムの見直しについては、新人事・給与関係が1年間稼働しました。担当者レベルでの調整を進めました。新会計・固定資産システムは、月次処理は問題なく、平成22年度決算処理の準備を進めました。

最後に、大学統合及び水落校地整備のために、平成23年2月1日付けで学園本部に新たに大学統合・学部新設準備機関を設置し、同25年4月に向けて作業を開始しました。

## ② 財政の健全化

少子化の進展に伴う学齢人口の減少や景気停滞による家計収入の減少が、学生・生徒の確保に極めて大きな影響を及ぼすなど、学校法人を取り巻く経営環境がますます厳しさを増す中、十分な教育環境の確保を図りながら優秀な人材を社会に送り出していくためには財政基盤の健全化が一層重要であります。学校法人の主要財源は、帰属収入の7割弱を占める学生生徒等納付金と2割弱を占める補助金であります。平成22年度は、学生・生徒の減少による納付金の減収や補助金の減少があったものの、ここは幼稚園の土地売却やリハビリ病院の事業収入が増加した結果、帰属収入では若干の増加となりました。

また、私立学校法で義務付けられている財務の情報公開につきましては、平成17年度に財務書類閲覧事務取扱要項を制定し、財務情報の円滑な公開に努めているほか、学校法人が公共性の高い法人として説明責任を果たし、関係者の信頼や支持をより得られる観点から法人と各学校のホームページに財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監事による監査報告書を掲載し、情報提供しているところであります。

## ③ 特色ある教育事業の実施

建学の精神を体現した特色ある教育研究活動を実践するという普遍的な教育事業を継続しつつ、時代の要請に即応した斬新な手法も取り入れることによって社会から理解と支持を得て入学者の確保を図り、安定した教学運営を行うことを第一義として、以下に掲げる事業を重点的に推進しました。

### i) 大学・大学院、短期大学、専門学校

○ 各校は、建学の精神に則った特色ある教育研究活動を実践し、有為な人材を育成して社会に送り出すことはもとより、こうした教育研究活動やアドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）等の情報を積極的に発信することにより、入学定員の確保に努めました。

○ 各校は、新たな学習環境に速やかに適応し、かつ専門教育も円滑に受容できるよう新入生に対する入学前教育及び初年次教育のより一層の充実に努めました。

- 各校は、教育力及び事務力の質的向上のためにFD（ファカルティ・ディベロップメント）及びSD（スタッフ・ディベロップメント）を継続して推進しました。
- 大学・短期大学各校は、教員免許更新制の継続に対応し、昨年度に引き続き教員免許状更新講習を実施して高等教育機関としての社会的使命を果たしました。
- 大学・短期大学各校は、特色ある教育・研究活動の実効性をより高めるために教育課程の一部を改定するなど、学則の変更を行いました。
- 課外活動においては、運動部関係では浜松大学（サッカー部・剣道部女子・陸上競技部・男子バスケットボール部・女子バスケットボール部・エアロビック部・サーフィン部・フィギュアスケート同好会）、富士常葉大学（水泳部）、常葉学園短期大学（男子バレー部）、の団体・個人が全国大会に出場を果たしました。このうち、浜松大学ではエアロビック部（チーム部門）とサーフィン部（新人の部）が準優勝、富士常葉大学では水泳部（男子個人飛込競技）が2位、常葉学園短期大学では男子バレー部が3位に輝くなど、活躍が目立ちました。また、常葉学園短期大学の音楽科の学生が、第8回ブルクハルト国際音楽コンクール（クラリネット部門）で入賞を果たすなど、文化面でも存在感を示してくれました。
- 各校における主要事業の実施状況は以下のとおりです。

#### <常葉学園大学>

- 志願者を増やすための入試方法の変更を行った結果、平成22年度は前年度比586人増、率にして20%の志願者増となりました。特に、不況による経済情勢を鑑み、受験生に対する経済的支援と学力優秀な学生の確保を狙いとした「特待生入試」を新設したところ、高校の現場や保護者・受験生から高い感心が寄せられて当該入試には387人が志願し、志願者増の原動力となりました。
- 教育学部の充実を図るため、平成24年度から生涯学習学科の入学定員を20名増員するための収容定員増認可申請及び中・高等学校教諭一種免許状（保健体育）の課程認定申請、同じく心理教育学科の入学定員も20名増員するための収容定員増認可申請及び特別支援学校教員免許状の課程認定申請を行う準備を進めました。
- 外国語学部の再編（主としてグローバルコミュニケーション学科）を検討するため、各専攻の代表からなるプロジェクトチームを発足させ、具体的な再編プランの策定に着手しました。
- 大学院の拡充を図るため、国際言語文化研究科の改組、教職大学院の教育・研究内容の充実について検討しました。
- FD、人間力育成、3つの学生支援センターについては、これまでの実績を継承しつつ一部改良を加えながら事業を継続しました。
- 平成23年度において、大学基準協会による2回目の認証評価及び教員養成評価機構による教職大学院の認証評価を受審するための事前準備を進めました。

- 人間力育成のためのD o - i n gプロジェクトについては、地域との連携を考慮した活動の選択を増やしました。また、高大連携や地域の小学校との連携プログラムにも力を注ぎました。
- 創立30周年記念事業として、平成22年10月23日に記念式典及び記念講演を実施したほか、教育学部、外国語学部、造形学部の各学部においても記念行事を実施しました。また、同窓会では大学祭に合わせて「ホームカミングデー」を実施し、卒業生とその家族約200名の参加があったほか、老朽化した諸施設・設備の更新、改修等を行いました。
- 教職履修者に対して新しい必修科目「教職実践演習」が課されることに伴い、履修（成績）カルテ作成のための教務事務システムのカスタマイズに着手しました。

#### <浜松大学>

- 大学内の管理体制を再構築するため学長会議を新設し、管理体制のより機能化と強化を図りました。
- 第三者評価の指摘事項（基準Ⅰ 改善向上方策 [将来計画]）を確実に履行するためのプロジェクトチームを編成し、履行に努めました。
- エアコンやパソコン等、インフラの整備に努めました。
- 平成22年4月に設置した健康プロデュース学部健康鍼灸学科・健康柔道整復学科を順調にスタートさせ、かつ円滑に運営するための学科会議を定着させたことにより学生支援や学生募集において一定の成果を挙げることができました。
- 大学全体として入学定員を確保するため、高校訪問の強化、オープンキャンパスの動員強化と内容の充実、入試相談会・模擬授業への積極的な参加と出前授業のPR、健康鍼灸学科・健康柔道整復学科の継続的なPR、新しい奨学金制度の創設等により入学定員の確保に努めた結果、入学定員充足率は前年度より改善されました。
- 学内全ての学部・学科においてアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを確立し、このうちアドミッションポリシーについてはホームページ上に公開しました。
- こども健康学科に養護教諭免許状取得のための課程認定申請を行い、認可されました。
- 社会人基礎プログラムを改良するため、基礎学力テストにおいては、資格対応学科とそうでない学科とに区分したテストを実施するなど、きめ細かな対応と指導に努めました。  
また、FDの推進については、学生の授業評価アンケートに教員の自己評価を加える等、授業改善の取り組みを進めました。

#### <富士常葉大学>

- 地域に根ざした高等教育機関として地域貢献を果たすとともに入学定員を確保するため、前年度の20校に引き続き、平成22年8月に沼津・三島地域の5つの高校と新たに

高大連携協定を締結しました。その結果、提携校からの志願者が着実に増加したほか、同23年1月に実施した提携校との高大連携事務打ち合わせ会では、高校側から出前講座や大学見学会の実施等さまざまな要望・意見が寄せられるなど高大連携の成果があがりつつあります。

- 入学定員の確保については、オープンキャンパスの充実、募集計画の前倒し実施等を通じて、学生の確保に努めました。
- 日本高等教育評価機構による第三者認証評価を受審しました。平成22年6月に自己評価報告書を提出し、同年10月に現地調査を受けた結果、同23年2月に大学評価基準を満たしていることが認定されました。
- FD、SDの推進については、平成22年11月に公開授業の実施と授業参観の双方を実施したほか、同23年3月には外部講師を招いて教授方等の研修会を実施しました。また、同年2月にはAEDの操作方法等の講習会も実施しました。
- 就職支援の充実については、前年度に引き続き就職支援のための大学改革推進等補助金の交付を受け、就職活動強化セミナー、社会人基礎力セミナー、地域産業連携セミナー、ふじとこ未来塾（プレジデント・インターンシップ）を実践したほか、キャリアカウンセラーや学生TAも配置しました。
- 教養教育については、AO入試等の合格者に対する3回のスクーリングの実施、新入生に対する入学前教育の実施（3日間の集中教育）、専門教育については、A&Sやふじとこ未来塾等における学生の研究発表を実施し、ともに充実を図りました。

#### 〈常葉学園短期大学〉

- 英語英文科においては、従来は3つのコース選択制（観光・エアサービス、子ども英語、留学・キャリアアップ）をとっていましたが、英文科のベースを“話せる英語（英会話）”にし、そのうえでいくつかのユニットを選択する方式に改め、平成23年度から実施することにしました。
- 名古屋短期大学との相互評価については、自己点検・自己報告書を作成して交換した後、相互に質問と回答を行いました。さらに、平成22年11月2日と4日には、両校が相互に訪問のうえ「相互評価会議」を開催して率直な意見交換と施設見学を行い、その結果について「相互評価報告書」としてとりまとめ、平成22年度中に公開しました。
- 教員免許（幼稚園）更新講習については、前年度に引き続き、平成22年8月23日から27日まで実施し、受講者から高い評価を得ることができました。
- 当初目標であった定員充足率90%を達成するため、年度当初に計画した募集活動の完全実施と戦略の一部練り直しを行い、学生の確保に努めました。

### 〈医療専門学校〉

- 浜松大学保健医療学部との相互協力関係の構築については、教育や学生支援、施設の共同使用等あらゆる面において双方の協力のもとで円滑に実施されており、順調な学校運営が推進されています。
- 本年度から浜松大学健康プロデュース学部健康鍼灸学科と健康柔道整復学科が設置されたことに伴い、本校と健康プロデュース学部との間では、教育や学生支援、施設の共同使用等の相互協力を円滑に進めています。
- 本校は、平成24年3月をもって閉校となるため、設置している4学科の学生の教育指導の強化に努めています。国家試験対策や就職先の確保対策はもとより、学生が卒業できないような事態が生ずることのないよう学生・教員・保護者が密に連携をとり、徹底的な指導・支援を行っています。

### 〈静岡リハビリテーション専門学校〉

- 募集活動の充実を図るため、高校訪問については、重点校・準重点校別に区分けして高校別ファイルを作成するなど、効果的・効率的に訪問ができるような工夫を凝らしたほか、高校側が気軽に出前講座を依頼できるよう教員のプロフィールを作成して配布しました。  
また、本年度からAO入試を導入した結果、入学者の増加につながりました。
- 臨床実習対策については、①通常講義の他に少人数グループによるゼミ学習の実践、②2年生を対象とした講義「人間とコミュニケーション」の導入、③臨床実習指導者会議を通じた教員と臨床実習指導者間の情報の共有、等を通じて、臨床実習の実効性を高めるよう努めています。

### ii) 高等学校、中学校、小学校

- 各校は、建学の精神及び各校独自の教育目標に則った特色ある教育活動を実践するとともに、こうした学校情報を積極的に発信して児童・生徒募集を強化することにより、入学定員の確保に努めました。
- 各校は、本学園がもつ総合学園としての特性を十分認識し、さまざまな機会を捉えて系列校間の連携を発展させることにより相互理解を深め、多くの児童・生徒が系列校に進学するよう努めました。
- 各校は、学園内研修はもとより、専門性の高い多様な外部研修にも積極的に参加を図り、教職員の能力開発及び育成に努め、その成果を教育活動や各種指導（進路、生徒、部活動、委員会活動等）に反映し、学校の活性化に努めました。
- 各校は、教育活動や組織を活性化し、学校全体の教育力を高め、保護者や地域住民の信頼と期待に応える学校づくりを行うために「学校評価」を実施しました。
- 橘高校は、音楽科の活性化を図るため、常葉中学は、中学校学習指導要領改定に伴う移



行措置への対応のため、橘小学校は、平成23年度から全面実施される小学校学習指導要領の改定に対応するため、たちばな幼稚園は、園舎新築移転に伴う位置変更、年齢別による定員・保育年限・学級数等を明らかにするため、それぞれ学則の変更を行いました。

- 運動部活動においては、橘高校女子サッカー部の3選手が第2回FIFAU-17女子ワールドカップ日本代表のメンバーに選ばれ、チームを準優勝に導く原動力となったほか、同校野球部が菊川高校との兄弟校対決を制し、前年度に引き続き夏の甲子園大会出場を果たしました。菊川高校では陸上競技男子やり投げでインターハイ3位、国体でも2位に輝いたほか、女子は暮れの全国高校駅伝競走大会に2回目の出場を果たしました。さらに橘中学では野球部とサッカー部が、第41回全国中学校体育大会でともに優勝を飾るという快挙を成し遂げました。このほか、常葉高校（体操部・新体操部）、橘高校（少林寺拳法部）、菊川高校（空手道部・ソフトボール部）、常葉中学（バスケットボール部・体操部）、橘中学（水泳部）、菊川中学（陸上競技部・空手道部）の団体・個人が全国大会への出場を果たしました。
- 各校における主要事業の実施状況は以下のとおりです。

#### <常葉中学・高校>

- 学校の特色づくりについては、高校グローバルスタディーズコースの指導體制を確立するため、①3年間を見通した指導計画の立案と実践、②中期・長期の海外留学の推進、③資格取得（TOEIC・英検等）のための指導強化、等に努めました。また、高校総合進学コースの指導體制の充実を図るため、①学園内大学等との連携教育の充実、②美術・音楽系希望者のための教育環境の整備と指導體制の強化、③英語教育を充実させるためのALTによるTT授業の導入、等を進めました。さらに中学校の特色を明確化するため、①マナー講座、伝統文化講座、福祉講座の内容の充実、②イングリッシュアドベンチャーの内容の充実、③部活動の一層の活性化、等に努めました。
- 教育力向上のために、校内研修や授業アンケートの実施、外部研修への積極的な参加、特色あるカリキュラムの編成等に努めました。
- 中高ともに平成23年度から制服を一新することとし、平成22年9月に制服の発表会を行ったところ大好評を博し、生徒募集の追い風にもなりました。
- 生徒募集については、①学校案内、ポスター、チラシ、ホームページ、広告等を工夫したイメージアップ、②生徒募集に関わる説明会の充実、③橘小学校との連携強化、等を通じて充実を図りました。
- 学校評価については、平成21年度における自己評価及び学校関係者評価の結果（抜粋）を保護者に公開しました。

### 〈橘中学・高校〉

- 生徒募集については、高校においては①生徒・保護者対象見学会、授業体験会、相談会の内容の充実、②中学校教員対象説明会の実施、中学校・学習塾への情報提供及び連携強化、③学校案内、入試インフォメーション、トピックスチラシの充実、中学校においては①生徒・保護者対象説明会、見学会、授業体験、プレテストの内容充実、②小学校・学習塾への情報提供及び連携強化、③小学校5年生を対象とした説明会、体験会の実施、等を通じて充実を図りました。
- 教職員が同じベクトルで継続して教育活動を行うため、「教育目的・目標と教育方針」を明文化しました。また、教育力向上のための新たな取り組みとして公開授業日の設定、授業力向上研修（外部主催）への積極的参加、入試問題研究・模擬試験問題研究の実施等を行いました。
- 生徒の学力向上と人間性の向上のための新たな取り組みを実践しました。

### 〈菊川中学・高校〉

- 生徒募集については、①ホームページのリニューアル、②新聞の折込チラシによるPRの推進（267,000部）、③学習塾に対する積極的なアプローチ、等を通じて充実を図りました。
- 教育力向上及び進学実績の向上については、授業研究会への参加、各分掌が主催する研修会の実施、外部研修への参加等により教員の資質向上を推進しました。また、進学実績向上については、進研模試・スタディサポートの積極的な受験、面接の充実、中・高のシラバスのデータ化、学習の手引きの発行、等を進めた結果、ほぼ前年度並みに国公立・難関私立大学への合格者を出すことができました。
- 美術・デザイン科の指導方針（生活・学習・進路・クラス経営）の確認と徹底を進めた結果、生徒の美術に対する取り組み姿勢に明らかな変化をもたらすことができました。

### 〈橘小学校〉

- 児童募集については、①魅力的な学校説明会の企画・運営、②ホームページの充実、③在学児童の保護者の満足度を高める努力、等を通じて児童の確保に努めました。
- 橘小教育の成果再発見については、①日記とノート作り指導、音読と読書指導の徹底、②「学ぶ」道具の徹底指導、③音と心の調和を目指すオーケストラ学習の充実、等に努めました。
- 職員研修体制の強化については、若手教員の自己改革と外部研修への参加、系統的な橘カリキュラムの作成、等を推進しました。
- 小学校「英語教育」の更なる改善については、英語学習の自学ができる児童の育成に努めたほか、平成23年度から実施するオーストラリア体験研修の準備を進めました。

### iii) 幼稚園

- 両園は、外部の幼児教育実践学会への参加や、特色ある幼児教育を実践していることで高い評価を得ている大阪せんりひじり幼稚園への視察と合同研修等を通じて、教員の資質向上に努めました。
- 両園は、教育活動や組織を活性化し、園全体の教育力・保育力を高め、保護者や地域住民の信頼と期待に応える幼稚園づくりを行うために「学校評価」を実施しました。
- 両園は、短期大学附属という特性を最大限発揮するとともに双方の幼稚園や橘小学校との連携等、他園にはない特色ある幼児教育を実践することにより保護者や地域住民から理解と支持を得るよう努めました。
- 各園における主要事業の実施状況は以下のとおりです。

#### <ここは幼稚園>

- 園児募集については、①未就園児教室の内容の工夫、②ホームページの充実、③幼稚園開放の工夫、等を通じて園児の確保に努めました。
- 園児が遊び込める環境づくりを実現する方策の一つとして、園庭に築山の設置と植樹を行いました。

#### <たちばな幼稚園>

- 園児募集については、①未就園児教室のPRと内容充実、②地域の子育て支援活動に対する支援、③ホームページの充実、等を通じて園児の確保に努めました。
- 英語教育については、橘小学校の英語教員からの指導による生きた英語を学ぶことにより、充実に努めました。
- 園舎については、平成22年11月に新築移転工事が完成し、同23年1月から新園舎で幼児教育を実践しています。

### iv) 豊田順介奨学基金

幼稚園から高等学校までの教育振興のために寄附いただいた「豊田順介奨学基金」の本年度における活用状況は、次のとおりです。

○中・高等学校	41件	7,073千円
○小学校	4件	241千円
○ <u>幼稚園</u>	5件	548千円
計	50件	7,862千円

v) その他

本年度における学生・生徒等募集状況は、少子化という厳しい環境にありながらも学園全体としての志願者は昨年度を7%近く上回る結果を残すことができました。しかしながら、個々の学校単位では、志願者を減らしたところや入学定員割れを起こしているところもあります。それらの学校においては、原因を正確に分析したうえで来年度の募集計画を再構築し、計画的できめ細かな募集活動を展開してまいります。また、それ以外の学校においても安定した学生・生徒等募集を継続するため、特色ある教育研究活動の推進等により一層の工夫に努めてまいります。

一方、就職状況においては、平成23年3月の4年制大学卒業者の就職内定率が68.8%と調査を開始して以来最低の数字を記録した（平成22年12月末現在）ことに象徴されるように、本年度は就職を希望する学生にとって非常に厳しい雇用環境下でした。学園内の各大学におきましてもこうした状況に変わりはないものの、学生個々の努力とキャリアサポート部門の効果的かつ的確な支援活動による相乗効果により、各校ともほぼ昨年度を上回る良好な結果を残すことができました。<別表1>

<別表1>

平成22年度における入学状況及び就職状況

(平成23年5月1日現在)

学校名	学部学科名	入学定員(人)	入学者数(人)	就職内定率(%)
常葉学園大学	教育学部			
	初等教育課程	110	123	99.1
	生涯学習学科	60	65	92.2
	心理教育学科	60	67	89.0
	外国語学部			
	英米語学科	100	113	91.2
	グローバルコミュニケーション学科	70	67	87.9
常葉学園大学	造形学部			
	造形学科	80	95	51.7
浜松大学	ビジネスデザイン学部			
	経営情報学科	120	87	77.3
	サービスと経営学科	120	73	78.6
	健康プロデュース学部			
	健康栄養学科	80	64	84.3
	こども健康学科	60	50	100.0
	心身マネジメント学科	110	100	90.5
	健康鍼灸学科	30	12	—
	健康柔道整復学科	30	41	—
	保健医療学部			
理学療法学科	40	49	—	
作業療法学科	40	33	—	
富士常葉大学	総合経営学部			
	総合経営学科	160	125	90.8
	環境防災学部			
	環境防災学科	—	—	97.9
	保育学部			
	保育学科	80	84	100.0
富士常葉大学	社会環境学部			
	社会環境学科	130	73	—
常葉学園短期大学	日本語日本文学科	80	63	56.8
	英語英文科	80	50	68.1
	保育科	200	229	100.0
	音楽科	55	35	73.7
常葉学園 医療専門学校	理学療法学科	—	—	97.3
	作業療法学科	—	—	100.0
	鍼灸学科	—	—	81.3
	柔道整復学科	—	—	80.0
常葉学園静岡 リハビリテーション 専門学校	理学療法学科	80	57	89.1

※ 大学院、専攻科、留学生別科、編入学、高校以下は除く

#### ④ 教育環境の整備・充実

より充実した教育の実現を図るため、学生・生徒等の学習ニーズの多様化や学校を取り巻く社会環境の変化に対応した施設設備の整備が重要であり、教育環境を充実・向上するための整備事業を実施しました。また、経年により老朽化が進む施設設備についても、計画的に更新や補修等の整備を実施しました。

主な整備事業は、次のとおりです。

- 常葉学園大学 … 本館・1号館外壁塗装工事、306・1306・造形教室パソコン更新、インターネットサーバ更新等
- 浜松大学 … 本館・3号館空調機更新、保健医療学部と本館とのLAN接続、C5・C6教室コンピュータ更新等
- 富士常葉大学 … 太陽光発電施設改修工事、証明書発行機更新等
- 常葉学園短期大学 … 本館・1号館間の学生掲示板設置工事、常葉寮床等改修工事等
- 常葉中・高等学校 … 水落校地地質調査等
- 橘中・高等学校 … 行之館柔道場床下改修工事、成績管理システム変更・設備更新等
- 菊川中・高等学校 … 本館等教室・廊下補修工事、美術デザイン棟エレベータ改修工事、自修館トイレ・シャワー改修工事等
- 橘小学校 … 2・3・4階床改修工事等
- とこは幼稚園 … 開放廊下改修工事
- たちばな幼稚園 … 新園舎建築工事、大型総合遊具設置工事、旧園舎解体工事
- 静岡リハ専 … パソコン等機器更新
- リハビリテーション病院 … 病院用地（駐車場）購入
- 法人本部 … とこは幼稚園旧校地売却、学園内LAN利用内線電話整備等

### (3) 施設等の状況

#### ① 現有施設設備の所在地等の説明

主な施設設備の状況は次のとおりです。

施設名・所在地	施設等		面積等	帳簿価額	
常葉学園大学 (静岡市)	校地		52,559㎡	1,222,108千円	本館、1号館、2号館、 3号館、サテライトビル
	校舎等	6棟	30,195㎡	2,949,853千円	
(島田市)	寄宿舎	1棟	639㎡	78,639千円	川根実習施設
(浜松市)	校地		2,564㎡	271,427千円	三ケ日セミナーハウス
	寄宿舎	1棟	733㎡	115,134千円	
(菊川市)	校地		11,524㎡	160,665千円	
	校舎	3棟	9,184㎡	643,917千円	
浜松大学 (浜松市)	校地		205,599㎡	2,862,728千円	本館、1号館、2号館、 3号館、5号館、トコホール 医療専門学校の土地・ 建物の一部含む
	校舎等	13棟	34,448㎡	4,967,786千円	
富士常葉大学 (富士市)	校地		88,552㎡	1,942,056千円	1号館、2号館、3号館
	校舎等	6棟	20,617㎡	2,639,858千円	
常葉学園短期大学 (静岡市)	校地		42,892㎡	1,582,814千円	本館、2号館、3号館、 4号館、5号館、6号館、 7号館、8号館、T号館
	校舎等	11棟	15,149㎡	1,099,099千円	
常葉学園中・高等学校 (静岡市)	校地		42,903㎡	2,368,605千円	本館、北館、東館、 南館、図書館、 常葉会館
	校舎等	8棟	10,506㎡	134,558千円	
常葉学園橘中・高等学校 (静岡市)	校地		46,020㎡	369,472千円	本館、音楽棟、美術棟、 新館、和敬庵 尚志館、行之館、橘志 館
	校舎等	9棟	18,349㎡	765,990千円	
常葉学園菊川中・高等学校 (菊川市)	校地		73,920㎡	751,815千円	本館、東館、北館、 南館、新館、光葉館、 美術棟
	校舎等	9棟	13,892㎡	869,179千円	
常葉学園大学教育学部 附属橘小学校 (静岡市)	校地		13,806㎡	855,666千円	本館、オーケストラレ ッスン室
	校舎	2棟	4,113㎡	245,325千円	
常葉学園短期大学 附属とこは幼稚園 (静岡市)	園地		2,500㎡	171,875千円	
	園舎	1棟	1,361㎡	254,146千円	
常葉学園短期大学 附属たちばな幼稚園 (静岡市)	園地		3,973㎡	249,821千円	
	園舎	1棟	1,520㎡	227,212千円	
常葉学園医療専門学校 (浜松市)	校地		0㎡	0千円	土地は浜松大学へ用 途変更 建物は1・2号館の一部
	校舎	2棟	6,783㎡	761,749千円	
常葉学園 静岡リハビリテーション専門学校 (静岡市)	校地		1,033㎡	1,000,036千円	
	校舎	1棟	3,181㎡	430,638千円	

施設名・所在地	施設等		面積等	帳簿価額	
常葉リハビリテーション病院 (浜松市)	土地		6,656㎡	149,664千円	
	病院	1棟	6,132㎡	69,893千円	
法人本部 (静岡市)	土地		4,546㎡	429,854千円	学生寮、研修センター、 迎賓館、スイミング
	寄宿舎 等	4棟	6,560㎡	358,152千円	
(伊豆の国市)	土地		334㎡	17,000千円	現在使用していない。
(浜松市)	土地		59,182㎡	503,938千円	
合 計(平成23年3月31日現在)	土地		658,563㎡	14,909,544千円	
	建物		183,362㎡	16,611,129千円	
				31,520,674千円	

## ② 主な施設設備の取得又は処分の状況

平成22年度の主な施設設備の増減は次のとおりです。

### ア) 施設設備の取得

- ・たちばな幼稚園 園舎新築

建物面積：1,520㎡ 取得金額：231,020千円（県補助金32,500千円）

- ・たちばな幼稚園 大型遊具設置

遊具一式 取得金額：6,400千円（県補助金 666千円）

- ・リハビリテーション病院 病院用地（駐車場）取得

取得面積：1,401㎡ 取得金額：14,116千円

### イ) 施設設備の処分

- ・たちばな幼稚園 旧園舎解体撤去

建物面積：1,366㎡ 除却金額：121,020千円

- ・法人本部 旧とこは幼稚園校地売却

売却面積：2,226.46㎡ 除却(取得)金額：41,600千円  
(売却金額：281,286千円)

### ウ) 施設設備の用途変更

- ・医療専門学校の施設設備の全部または一部を浜松大学へ用途変更

常葉学園医療専門学校理学療法学科及び作業療法学科を浜松大学保健医療学部へ、同じく鍼灸学科及び柔道整復学科を健康プロデュース学部へ発展改組したことに伴い、医療専門学校の校地の全部と校舎の一部を浜松大学の校地・校舎へと用途変更する。(年次進行)

#### 変更面積

		旧	新	増減
土 地	医療専	14,901㎡	0㎡	▲14,901㎡
	浜松大	190,698㎡	205,599㎡	+14,901㎡
校 舎	医療専	7,373㎡	6,783㎡	▲590㎡
	浜松大	33,858㎡	34,448㎡	+590㎡



#### (4) その他

##### ① 理事会の開催状況

- 第1回 平成22年 5月15日 (土)
- 第2回 平成22年 5月15日 (土)
- 第3回 平成22年12月23日 (木)
- 第4回 平成23年 3月21日 (月)
- 第5回 平成23年 3月21日 (月)

##### ② 評議員会の開催状況

- 第1回 平成22年 5月15日 (土)
- 第2回 平成22年12月23日 (木)
- 第3回 平成23年 3月21日 (月)

##### ③ 監事監査の実施状況

- 第1回 平成22年 5月11日 (火)
- 第2回 平成22年12月 7日 (火)
- 第3回 平成23年 3月16日 (水)

### 3. 財務の概要

#### (1) 財務の概要

本学園の財政運営に当たっては、「学校経営の安定を図り、健全な学校運営を行うため、堅牢な財政基盤の構築と徹底した支出の削減」を基本目標に経営の合理化に努めてまいりました。

平成22年度における消費収支上の主な財務の概要は次のとおりです。

平成22年度の帰属収入(消費収支計算書参照)は、126億92百万円と対前年度比29百万円の増加でしたが、これは主として学生生徒等納付金が2億43百万円、補助金が69百万円減少したものの、資産運用収入等のうち、土地売却差額が2億40百万円、附属事業収入が1億35百万円増加したことによります。

また、基本金組入額は、環境情報専門学校の建物の浜松大学への移管が平成21年度に終了したこと、たちばな幼稚園の改築に伴い建物等の除却が増加したこと、浜松大学の新学部・研究科設置に係る未払いが解消したことなどにより、5億24百万円減少しました。

一方、消費支出は、114億88百万円で対前年度比1億34百万円減少しました。これは、管理経費が94百万円増加したものの、教育研究経費が91百万円、人件費が2億8百万円が減少したことによるものです。

この結果、消費収入から消費支出を控除した当年度消費収入超過額は、5億90百万円となっております。

次に貸借対照表の概要ですが、資産の部は、対前年度比12億30百万円増加しております。これは、有形固定資産のうち、土地28百万円、建物・構築物5億56百万円、その他の流動資産のうち短期有価証券が7億35百万円減少しているものの、その他の固定資産のうち、財政調整資金引当特定資金が15億39百万円、流動資産のうち現金預金が11億29百万円増加したことなどによります。

基本金は、当期取崩しが2億75百万円あるものの、当期組入れが6億14百万円あるため、対前年度比3億39百万円増加しております。

## (2) 資金収支計算書

(単位:百万円)

科 目 名		平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	8,304	8,547	8,680	8,671	8,401
	手 数 料 収 入	181	172	163	158	183
	寄 附 金 収 入	111	88	115	188	48
	補 助 金 収 入	2,181	2,250	2,097	2,131	2,104
	資 産 運 用 収 入	218	210	176	163	189
	資 産 売 却 収 入	302	1	1	1	272
	事 業 収 入	973	759	709	688	649
	雑 収 入	408	593	417	366	502
	前 受 金 収 入	1,724	1,723	1,706	1,728	1,928
	そ の 他 の 収 入	3,842	4,789	6,753	4,084	2,714
	資金収入調整勘定	△ 2,183	△ 2,385	△ 2,273	△ 2,362	△ 2,341
	前年度繰越支払資金	6,370	5,780	3,722	5,158	6,599
	合 計	22,431	22,527	22,266	20,974	21,248
	支出の部	人 件 費 支 出	7,421	7,628	7,490	7,314
教育研究経費支出		1,758	1,801	1,774	1,788	1,650
管 理 経 費 支 出		924	830	876	903	970
借入金等利息支出		21	24	26	24	26
借入金等返済支出		104	87	87	87	95
施 設 関 係 支 出		360	340	517	964	895
設 備 関 係 支 出		298	278	337	328	151
資 産 運 用 支 出		3,586	4,804	5,368	5,555	4,857
そ の 他 の 支 出		1,014	993	641	632	445
資金支出調整勘定		△ 554	△ 628	△ 630	△ 343	△ 310
次年度繰越支払資金		7,499	6,370	5,780	3,722	5,158
合 計		22,431	22,527	22,266	20,974	21,248

### (3) 消費収支計算書

(単位:百万円)

科 目 名		平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度
消費収入の部	学生生徒等納付金	8,304	8,547	8,680	8,671	8,401
	手数料	181	172	163	158	183
	寄附金	168	131	317	239	77
	補助金	2,181	2,250	2,097	2,131	2,104
	資産運用収入等	1,858	1,563	1,303	1,217	1,341
	帰属収入合計	12,692	12,663	12,560	12,416	12,106
	基本金組入額合計	△ 614	△ 1,138	△ 844	△ 887	△ 1,091
	消費収入の部合計	12,078	11,525	11,716	11,529	11,015
消費支出の部	人件費	7,450	7,658	7,492	7,314	7,370
	教育研究経費	2,859	2,950	2,913	2,909	2,782
	管理経費	1,033	939	983	1,000	1,061
	借入金等利息等	146	75	68	44	44
	消費支出の部合計	11,488	11,622	11,456	11,267	11,257

## (4) 貸借対照表

(単位:百万円)

科 目 名		平成23年3月31日	平成22年3月31日	平成21年3月31日	平成20年3月31日	平成19年3月31日
資 産 の 部	固定資産	45,273	44,356	43,081	42,535	40,941
	土 地	14,909	14,937	14,937	14,700	14,700
	建 物 ・ 構 築 物	17,210	17,766	18,328	18,778	18,671
	機 器 備 品	1,632	1,647	1,787	1,878	1,959
	図 書	2,745	2,712	2,674	2,602	2,536
	その他の固定資産	8,777	7,294	5,355	4,577	3,075
	流動資産	10,233	9,920	10,216	9,479	9,837
	現 金 預 金	7,499	6,370	5,780	3,722	5,158
	その他の流動資産	2,734	3,550	4,436	5,757	4,679
	合 計	55,506	54,276	53,297	52,014	50,778
負 債 ・ 基 本 金 ・ 消 費 収 支 差 額 の 部	固定負債	2,218	2,237	2,277	2,362	2,128
	長 期 借 入 金	704	808	913	1,000	766
	退 職 給 与 引 当 金	1,422	1,394	1,364	1,362	1,362
	その他の固定負債	92	35	0	0	0
	流動負債	2,685	2,640	2,662	2,400	2,546
	短 期 借 入 金	104	104	87	87	87
	前 受 金	1,738	1,736	1,717	1,741	1,940
	その他の流動負債	843	800	858	572	519
	基本金	50,776	50,437	49,758	49,084	48,207
	消費収支差額の部合計	△ 173	△ 1,038	△ 1,400	△ 1,832	△ 2,103
合 計	55,506	54,276	53,297	52,014	50,778	

## (5) 主な財務比率比較

(単位: %)

比率名	算式	22年度	21年度	20年度	19年度	18年度
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	9.5	8.2	8.8	9.3	7.0
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	95.1	100.8	97.8	97.7	102.2
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{帰属収入}}$	65.4	67.5	69.1	69.8	69.4
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	58.7	60.5	59.6	58.9	60.9
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	22.5	23.3	23.2	23.4	23.0
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	8.1	7.4	7.8	8.1	8.8
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	381.1	370.8	383.7	395.0	386.3
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	9.7	9.9	10.2	10.1	10.1
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	91.2	91.0	90.7	90.8	90.8
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	98.2	98.1	97.7	97.8	98.2

## (6) 借入金の状況

借入先	借入金額(千円)	借入残高(千円)	利率(%)	返済期限	担保等
日本私立学校振興・共済事業団	558,000	62,000	4.9	平成24年9月	土地、建物
〃	1,000,000	444,400	2.2	平成30年9月	土地、建物
〃	320,000	302,090	2.1	平成39年9月	土地、建物
合計	1,878,000	808,490			

### (7) 寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金額 (円)	摘要
一般寄付金	浜松大学後援会	16,000,000	通学バス管理委託費
一般寄付金	浜松大学(学校行事支援整備会計)	17,600,000	通学バス管理委託費
一般寄付金	常葉中・高等学校H17～21年度卒業生	5,974,576	綴帳積立金
特別寄付金	常葉学園大学(情報システム費会計)	4,672,500	教務事務システムカスタマイズ費
特別寄付金	浜松大学後援会、学友会	4,000,000	学生ホール机購入費
特別寄付金	浜松大学卒業生	4,278,750	トコハホール映像機器他購入費
特別寄付金	(財)日本環境整備教育センター	3,000,000	研究費(富士大・小川教授)
特別寄付金	京都大学	6,000,000	研究費(富士大・重川教授)
特別寄付金	(独法) 科学技術振興機構	6,500,000	研究費(富士大・田中教授)
特別寄付金	菊川中・高等学校後援会	4,890,240	パソコン購入費
特別寄付金	菊川中・高等学校後援会	5,355,000	空調機取付工事費
現物寄付金	浜松大学後援会	4,116,000	1号館北側中庭整備

### (8) 補助金の状況

私立大学等経常費補助金については、4大学合計で7億67百万円余、静岡県私立学校経常費補助金(専門学校、高中校、小学校、幼稚園が対象)については、11校合計で12億95百万円余の交付を受けています。